

当院における輸血後感染症検査実施率向上の取り組み

◎清原 大地¹⁾、森本 奈津代¹⁾、相川 真優¹⁾、村田 尚巳¹⁾、村瀬 斉¹⁾
半田市立半田病院¹⁾

【諸言】当院では輸血後感染症検査の実施率向上への取り組みとして「担当医師への輸血後感染症検査対象者リストの配付」を実施してきたが、実施率は伸び悩んでいた。そこで2017年から3ヵ年計画にて「輸血部にて輸血後感染症検査項目の代行入力」「転院患者への輸血後感染症検査案内の郵送」「入院患者へ輸血後感染症検査説明」の3つの取り組みを立案した。また、2018年5月輸血細胞治療学会から輸血後感染症検査に関する提言を受けての当院での対応についても報告する。

【対象・方法】2016年11月以前の取り組み「担当医師への輸血後感染症検査対象者リストの配付」と新たに検査実施率向上の取り組みが行われた2016年12月～2018年6月「輸血部にて輸血後感染症検査項目の代行入力実施」、2018年7月～8月「転院患者への輸血後感染症検査案内の郵送」に関して輸血後感染症検査実施率推移を算出した。輸血患者数は月単位で集計し、同一患者を1月に複数回輸血しても1人としてカウントした。死亡数は検査対象期間以前に亡くなった方のみカウントした。輸血後感染症検査はHBV-DNA、HCV抗体、HIV抗原抗体の3項目すべて実施された場合を検査実施済とした。

【結果】2016年11月以前の5年平均実施率は31%であった。2016年12月～2018年6月「輸血部にて輸血後感染症検査項目の代行入力実施」の取り組みでは平均で49.6%まで上昇した。2018年「転院患者への輸血後感染症検査案内の郵送」の取り組みでは平均で64.5%まで上昇した。

【結語】各取り組みでは一定の成果を見出すことが出来たが、業務量が増え現状の職員で

は対応が困難であった。特に「転院患者への輸血後感染症検査案内の郵送」では該当患者の予約受付方法の確立、専用外来の設置と専門医師の配置において他部署にも業務負荷がかかった。よって3ヵ年計画のうち「入院患者へ輸血後感染症検査説明の実施」までは実施に至らなかった。また、2018年5月輸血細胞治療学会から輸血後感染症検査に関する提言を受け輸血後感染症検査の今後の有り方についても方針が定まっていない状況である。保健所の監査や病院機能評価等の指摘事項を踏まえつつ当院輸血部会の方針としては「輸血部による輸血後感染症検査の代行入力」のみを実施することとした。また、輸血前の同意書・説明書の文書修正を行い、輸血後感染症検査保険適応期間の記載を明確化した。輸血治療に対する病院の責務と輸血後感染症検査への取り組みについては今後の動向を踏まえて再度検討されるべきであると考えた。